

# 第36回徳山オープン卓球大会伊藤杯争奪戦 試合結果

期 日:平成 28年 1月 9-10 日  
 会 場:キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

## 《講 評》

男子団体ベスト4は、ヒロタクススポーツ・ねや卓球クラブ・可部卓球クラブ・由宇中学校が進出。決勝戦は、小学生を中心としたヒロタクススポーツとねや卓球クラブの対戦。ヒロタクススポーツの一番飯村が3-0で勝ったことでより勢いが増し、2番の玄道がそれに続き、ダブルスは、ねや卓球クラブが一矢報いたものの、流れはヒロタクススポーツのままであった。ヒロタクススポーツの勝利に向かっての強い気持ちが、チームを2連覇に結び付けた。意識を高く持っていた試合ぶりが印象的であった。

女子団体ベスト4は玖珂中学校・山陽女子中学校・津宮クラブ・ヒロタクススポーツが進出。女子は、山陽女子中学校の勢いのある攻めの卓球に、頂点前後の打球点の使い分けや、タイミングの速さに変化をつけ、打球の強さと柔らかさを持たせた玖珂中学校が勝利した。今大会では女子は特に、ミスのない、つなぎのバック、そして決めのバック、また打点を使い分けるなど、バック技術の向上が目立った。

中学男子シングルスは、全日本選手権大会のため野田学園の不出場は残念であったが、個々に将来性を感じる選手も見られた。準決勝・決勝ともチキータを嫌い、大きい変化サーブを出した展開からの試合が多かった。その中でも、強気で攻めていき、自分のペースに持ち込んだTCマルカワの中田選手が優勝を掴んだ。ヒロタクススポーツの玄道選手も、巧みさをみせたが、中田選手の攻めの姿勢に押し切られた。

中学女子シングルスは、ベスト4を玖珂中学校が独占し、昨年に続いて山本選手が連覇した。

ホープス男子は、昨年のカブに引き続き、飯村選手が予想通り圧倒的な強さで優勝した。ねや卓球クラブの斉藤選手も健闘し準優勝。今後に期待をしたい。ホープス女子は、ピンポンカベの山崎選手が、4年生の時にカブ優勝、5年生でホープス優勝、今回3年連続の優勝を果たした。カブ男子優勝のさくらエリートアカデミー西田選手は、学年が上がっても楽しみである。

シングルスは、男女とも戦術の工夫がなされた試合が多かった。大きいサーブを出し相手に攻めさせて、それを利用し自分の勝ちに結び付けていくプレイに、発想の転換「後の先」の戦術を感じた。

全体的には、去年よりもツッツキに対するスピードバックドライブ、ショートサーブに対するチキータレシーブを使う選手の増加を強く感じた。相手のレシーブを打ち抜くバック、三球目攻撃としての居合い抜きのバックには、目を見張るものがあった。また、男女とも短いサーブ主体ではなく、変化やスピードのある大きいサーブを使い、相手に先に攻めさせて、恐れることなくそのボールをタイミングの早い両手で返す展開や、強ドライブで逆襲する戦術の多用が目立った。過去には少なかったこのような戦術を、日ごろから意識して練習することの大切さを皆さんにも肝に銘じて欲しい。

## 伊藤 繁雄

	1 位	2 位	3 位	
男子団体 チャンピオンカップ	ヒロタクススポーツ 広島	ねや卓球クラブ 岡山	可部卓球スポ少 広島	由宇中学校 山口
女子団体 チャンピオンカップ	玖珂中学校 山口	山陽女子中学校 岡山	津宮クラブ 島根	ヒロタクススポーツ 広島
男子団体 チャレンジカップ	ななく卓球スポ少 岡山	光卓球スポ少 山口	呉夢TTC 広島	おのだJTC 山口
女子団体 チャレンジカップ	玖珂SCJr 山口	呉夢TTC 広島	石見中学校 島根	南曾根中学校 福岡
中学男子 シングルス	中田裕太 TCマルカワ	玄道一成 ヒロタクススポーツ	寺岡祐人 可部卓球スポ少	原田哲多 東広島スカイジュニア
中学女子 シングルス	山本 愛 玖珂中	金本彩加 玖珂中	梅森由萌香 玖珂中	河野 凧 玖珂中
ホープス男子 シングルス	飯村将史 ヒロタクススポーツ	斉藤秀太 ねや卓球クラブ	岡崎真也 ヒロタクススポーツ	道広晴貴 ねや卓球クラブ
ホープス女子 シングルス	山崎唯愛 ピンポンカベ	大西友佳 卓球屋ジュニア	幸地萌香 OTSジュニア	福田雅子 山口ジュニアクラブ
カブ男子 シングルス	西田有輝 さくらエリートアカデミー	丸川智弘 T・Cマルカワ	横部叶愛 ねや卓球	山下敬紘 呉夢TTC
カブ女子 シングルス	金本理央 玖珂SCJr	田原留奈 TUKATAKU	藤村結香 TSUKATAKU	内田花陽 内田スポーツ